



2026年3月3日発行(季刊)

認定 NPO 法人 市民シンクタンクひと・まち社
〒160-0021 新宿区歌舞伎町 2-19-13 ASK ビル 501
TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202
E-mail npo@hitomachi.org
URL : <http://www.hitomachi.org>
郵便振替口座 00170-6-410791 NPO 法人市民シンクタンクひと・まち社

東京都議会と生活者ネットワーク

都議会立憲ミライネット政調会事務局 / 前東京・生活者ネットワーク政策調査室長 日向美砂子

◆伏魔殿?の都議会へ

私は小平市議を3期12年務めた後、次の議員にバトンを渡し、2019年から東京・生活者ネットワーク政策調査室スタッフとして活動していました。地域ネット議員やメンバーと連携し、調査や政策づくりに携わることはローテーションの意義のひとつだと実感しています。

昨年の都議選で再選した岩永やす代さん(国分寺市国立市選出)が合同会派・立憲民主党・ミライ会議・生活者ネットワーク無所属の会に入ったのを機に、政務調査会事務局スタッフとなり、都議会に異動しました。

都議会は、ひと・まち社の初代代表理事でもある池田敦子さんが、生活者ネット初の議員として活躍した場です。「台所のことを議会に持ち込むな」とのヤジに象徴されるように、生活者や女性の政治参画を切り拓いてきた歴史があります。

巨大な財政規模(2026年度はスイス並とか)と強い首長権限をもつ東京で、市民の代弁者として先輩たちが議会で訴えてきたごみ問題や子育て・介護の問題は、いまや法制化され、広く共有される社会課題となりました。先ごろの衆院選で「生活者ファースト」がうたわれましたが、そのずっと前から市民政治を実践してきたのです。

◆すれ違い答弁は小池都政ゆえ?

とはいえ、驚くこともあります。議会質問の準備を細かく行うというのは、以前から聞いていましたが、想像以上でした。担当部署とのやり取りをていねいに行うことで、こちらの意図をしっかりと伝えたり、行政側の情報を得ることは大事なことです。しかし、小池知事都政は、支持政党でない会派へは塩対応。質問の趣旨に沿うようにやりとりするのに相当の時間がかかります。

過去の都議会の議事録を読むと、池田さんと当時の知事の食品安全に関する質疑では、論点を踏まえた建設的な質疑も見られ、二元代表制の原点を改めて考えさせられます。また、都の規模ゆえに縦割りが強く、横断的施策を提案することの難しさも痛感しています。

◆だからこそ生活者の声を

それでも、生活者ネットが都議を出し続けていることの意義をあらためて感じる半年でもありました。条例は全庁的な取り組みを促す力を持ちます。ネットの粘り強い提案で実現した子どもの権利条例(東京都こども基本条例)は、子供政策連携室の設置と全庁取組につながっています。

いま、岩永さんは、同じ発想でケアラー支援条例を提案しています。そして、新年度では注目の新事業があります。「介護事業者経営力強化等サポート事業」です。都は2025年度に都内の訪問介護事業所への調査を行い、約4割が小規模事業所であることを把握。今後、小規模事業所の運営の安定がなければ東京の介護は乗り越えられないと判断し、事務のバックアップや複数の訪問介護事業所の連携のしくみ構築とサポートなど新たな試みを展開する予定です。これは、まさに生活者ネットとひと・まち社が行った調査結果への成果であり、大きく期待し、後押ししていきたい事業です。

これからも、政治の大きな波に飲み込まれず「元祖生活者」として、地域の声をしっかりと届けていきたいと思っています。

